

事業紹介 街や社会を支えるインフロニアグループ

土木事業 > P.42

ダムやトンネルを中心に都市土木や発電所、防衛関連工事などを行う

建築事業 > P.40

再開発事業や超高層集合住宅などの大型工事を中心にオフィスビルや工場、研究施設、大型物流施設の建設などを行う

舗装事業 > P.48

舗装工事やアスファルト合材の製造販売を行う

インフラ運営事業 (再生可能エネルギー) > P.44, P.46

蓄電池や風力発電事業の開発や建設、運営・維持管理、売電を行う

機械事業 > P.50

建設機械の製造販売・レンタル・アフターサービスを行う

インフラ運営事業 (官民連携) > P.44

公共インフラ等の運営権を取得し、建設、運営・維持管理を手掛ける

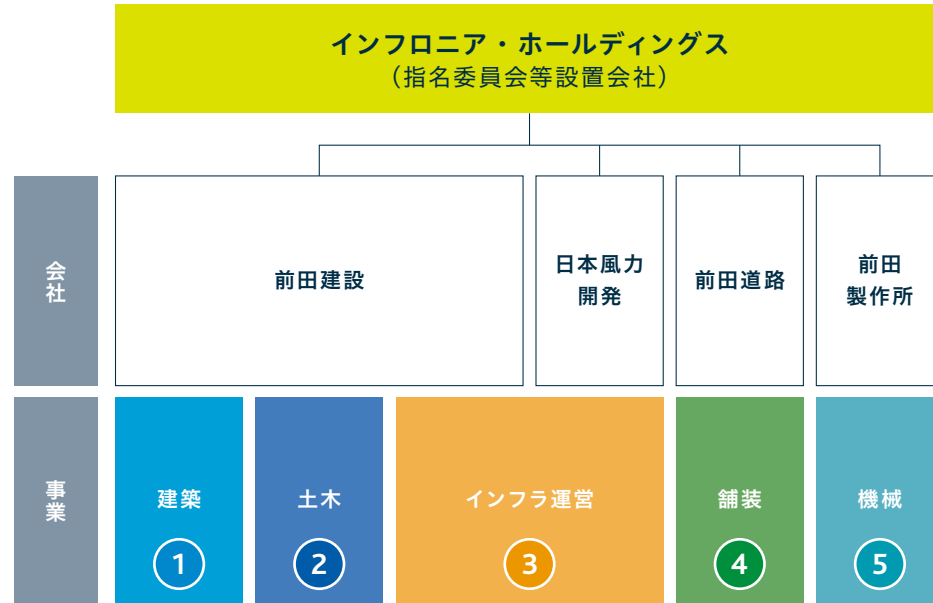
> インフロニアのグループ紹介

インフロニアグループは、社会基盤の整備と持続可能な未来の実現を目指す「総合インフラサービス企業」として、インフラを上流から下流までワンストップでマネジメントする唯一無二のビジネスモデルを実行しています。

例えば、道路、ダムやトンネル、建物、上下水道、エネルギー施設、スタジアム・アリーナなど、人々の生活や経済活動を支えるインフラを通じて、安全で快適な社会の実現に貢献しています。インフラ運営の官民連携ではスタジアム・アリーナやウォーターPPP※等で国内有数の実績があり、再生可能エネルギー事業では日本風力開発が2024年1月に仲間入りしたことで一気通貫で事業展開できるようになりました。

建築事業、土木事業、舗装事業における高度な受注規律や上流からの案件開発、機械事業の

> ※PPP：P.95用語集をご覧ください



> その他の構成企業についてはWebサイトをご覧ください <https://www.infroneer.com/jp/company/ourbusiness.html>

> 事業セグメントにおける取り組み状況はWebサイトをご覧ください <https://www.infroneer.com/jp/sustainability/segment/>

設計からサービスまで一気通貫で手掛ける技術力が当社のビジネスモデルを支えています。このような請負と脱請負の好循環を創出する構造が街や社会を支える事業展開につながっています。

> インフロニアが目指す事業ポートフォリオ

新中期経営計画では、これからの3年間で「投資事業拡大フェーズ」と位置づけており、キャッシュフローの健全性や潜在成長力を示す適切な指標として、EBITDAを採用し、持続的な成長を目指します。

2027年度には、EBITDAを1,100億円、特にインフラ運営事業のEBITDAは2024年度から3倍程度に増加し、全体の割合の約20%とする計画です。また、2030年度にはEBITDAを1,500億円に拡大し、インフラ運営事業の割合をさらに増加させる見通しです。

